七小校長室便り

国立市立国立第七小学校　大山紀子
校長室便りNo.7　　令和３年（2021）３月８日

たくさんのご来場、本当にありがとうございました！

２月19日（金）・20日（土）の展覧会には、本当にたくさんの方がご来場くださいました。例年であれば平日はそれほど大勢の方のご来場はないイメージがあるのですが、今年は地域の方も含めて、19日から多くの方のご来場をいただくことができました。

アンケートのご回答もありがとうございました。いつもにもまして、いただいた文面から皆様の興奮、激励、感謝などの「熱さ」が伝わり、「見に来ていただいて本当によかった」と嬉しく思いました。

以下にいただいた感想、次回につながるご提案などの一部をご紹介いたします。（表現は簡潔にしてあります）全教員で回覧し、２年後の参考にいたします。

～＊～

〇子供たち、先生方のパワーがすごい！大満足の展覧会だった。
〇宝探しのようなワクワク感があった。
〇単なる展示でなく見せ方に工夫がありよかった。
〇私自身は図工が苦手だったが、こんな作品を作るような授業なら参加してみたいと思った。
〇図工の伊藤先生はじめ先生方の子供たちへの愛が伝わった。オンラインではできない学びを子供たちは感じたと思う。
〇展覧会の会場図がとてもよく分かり、全学年の作品を楽しめる構成になっていた。
〇個人的にキッズ工房のジオラマが大好き。恒例にしてほしい。
〇すべての子供が生き生き、伸び伸びと創作していて「七小が楽しい学校なんだ」ということが伝わってきた。これから七小で過ごす日々が楽しみになった。
〇作品のテーマが身近で、子供たちにとって分かりやすくイメージしやすいものだった。楽しい図工の時間だったと思う。
〇6年生の、心の中を表した作品と言葉に涙したものもあった。
〇6年生の舞台の作品は、心に残った。全員の作品をまとめて冊子にしたらどうか。
〇6年生の大樹、5年生のいやしの滝が全体をまとめて、体育館が一つのオブジェのようだった。
〇子供たちの気付きを作品にしてくださった先生がすごいと感じた。
〇コロナ対策ができていて安心してゆっくり見られた。　〇暖房もよかった。
〇学校でどう過ごしているのか情報が少ない中、体育館の全ての作品を知りたいと強く思った。
〇なまえ de デザインにはまった。１冊の本にしたら脳トレになる。
□学校全体のテーマ、ストーリーがあっても面白い。
□「西側昇降口」の表現より「飼育小屋側」のほうが分かりやすい。受付の場所もやや分かりにくかった。
□順路が途中、分かりにくいところがあった。
□事前に作品紹介をしたリーフレットが配布されると更によい。
□タブレットの音が聞こえにくかった。
□今後、発想の多様性・ビジュアル面での完成度が上がると更に良い。
□クラスの共同作品があってもいいかな、と思った。

すてきな会になりました・・・・６年生を送る会が終わりました

今年は「密」を避けるため、様々な工夫を行っての送る会となりました。まず、６年生は各学年が廊下で列を作る中を体育館へ入場。その後、学年ごとに入れ替わりで体育館に来て６年生に感謝の気持ちを伝える出し物を披露しました。一堂に会することはできませんが、その分、６年生と、その学年だけの特別な時間を過ごすことができました。

最後、６年生からの感謝の言葉は、５年生がしっかりと全校を代表して受け止めました（この様子は録画して後日クラスで見ます）。卒業式に列席できない５年生にとっては、この時がまさに国立第七小学校の最上級生としてのバトンを渡された瞬間でした。

心を込めて会への感謝を述べる６年生と、それを一言も聞き漏らすまいと聞く５年生。素晴らしい光景でした。